

科目分類	専門職の教育			開講学科	学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
11060	3	前期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	国際看護論 (Global Health Nursing)				
担当教員名	内木 美恵				
授業の概要及び到達目標					
<p><b>【授業概要】</b> グローバルな視点に立ち、文化、社会経済、政治、教育などの現状を視野に入れ、生活や価値観へのより深い理解に立った看護のアプローチについて理解することである。また、国際社会における健康問題、保健・医療システムなどを日本との共通点や相違点を通して理解を深める。特に、今日の複雑な政治経済状況の下、発展途上国の医療・保健に影響を与えているさまざまな要因を把握し、社会科学、人間科学的な視点も踏まえた看護の役割について学習する。</p> <p><b>【到達目標】</b> 基本的な保健、衛生、医療を必要としている途上国が直面している生活問題、疾病傾向と看護および予防について理解し、健康問題をグローバルな視点で捉え説明できる。</p>					
準備学習等					
<p><b>【第1回講義】</b>（予習復習の目安時間：予習 30 分、復習 30 分） 世界の健康に関する事柄に興味を持って頂きたい。健康の保持や増進が難しい状況かにある途上国などの保健、衛生など健康に関係する事柄について、新聞、雑誌などから情報を得ておく。講義後は、日本と比較しながら考えながら、途上国の状況への理解を深めること。</p> <p><b>【第2、3、4回講義】</b>（予習復習の目安時間：予習 30 分、復習 30 分） 日本とは文化の違う人々を対象とするため、他国（興味のある国）の歴史、政治、経済について情報を得ておく。また、新聞などで問題視されている世界で起きている出来事（例：アラブ地域からヨーロッパへの避難民問題、シリア内戦問題、アフリカ飢餓問題、感染症などと国際支援など）と、健康について考えておく。講義後は、日本との比較を行いつつ理念等、途上国の社会状況への理解を深めること。</p> <p><b>【第4、5、6回講義】</b>（予習復習の目安時間：予習 30 分、復習 30 分） 国際看護論は、地域看護、母性看護、小児看護、災害看護などとの関連が強いため、これらの授業を振り返っておく。講義後は、日本のこれらの分野との違いを比較しつつ、理解を深めること。</p> <p><b>【第7回講義】</b>（予習復習の目安時間：予習 30 分、復習 30 分） 最近世界で置いた自然災害について、健康に引きつけて自分の考えをまとめておく。講義後は、日本の災害との違いと比較しながら理解を深めること。</p> <p><b>【第8回講義】</b>（予習復習の目安時間：予習 120 分、復習 30 分） 自身が興味のある国について、健康に影響を与える社会背景を理解しながら、健康問題についてまとめておく。グループで行うことも可能。講義後は、何が自分にできるか考えること。</p>					
成績評価の方法	評価は、レポート、授業への取り組み（発言、事前学習状況）を総合して行う。レポート 60%、授業への取り組み 40%				

テキスト	浦田喜久子編集(2019). 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 (医学書院)
参考図書	日本ユニセフ協会 (ユニセフ日本委員会) (2017/2018) . 世界子供白書 2017 デジタル世界の子どもたち. 日本ユニセフ協会 UNDP (2016)/国連開発計画駐日代表事務所(2016). 国連開発計画 UNDP 年次報告書 2015/2016 将来の展望より良い未来のためのパートナーシップ構築. 国連開発計画駐日代表事務所 UNDP (2018)/国連開発計画駐日代表事務所(2018). 年次報告書 2017. 国連開発計画駐日代表事務所 UNFPA (2018). 世界人口基金白書 2018～CHICE～. UNDP UNFPA (2017). 世界人口基金白書 2017 分断される世界一格差拡大時代のリプロダクティブ・ヘルス/ライツ. UNDP
備考	国際看護、途上国の健康にあまり興味がない者であっても、日本の病院等では外国人など価値観の異なる対象を看護する場面がある。文化が違う対象者への理解を深めるためにも本講義は役立つと考える。 講義終了後 1 時間程度または、講義前 30 分程度質問等を受け付けます。 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。 オフィスアワー：授業終了後、教室等で質問を受け付けます。 授業の終わりにまとめを行い、各講義での学びについて述べていただきコメントします。必要時課題を出しますので、知識を深めてください。
授 業 計 画	
<p>&lt;授業の進め方&gt; 講義、グループワーク、演習、講義中のディスカッションなどで学びを深める</p> <p>&lt;授業内容&gt;</p> <p>第1回:国際活動の実際を知る (発展の途上にある国で健康の問題に苦しむ人々、災害、紛争の被災者への看護活動の実際について映像を交え講義する。ウガンダの母子保健事業、フィリピン中部台風支援活動など)</p> <p>第2回:途上国での保健、衛生に関する理念、動向を知る (プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、リプロダクティブヘルス・ライツ、持続可能な開発目標SDGsなどについての理解を深める)</p> <p>第3回:国際機関、国際協力、国際緊急救援に関連する組織を知る</p> <p>第4回:発展の途上にある国の健康の問題を考える 1) 健康であるための社会環境 (経済、交通、習慣、教育など)</p> <p>第5回:発展の途上にある国の健康の問題を考える 3) 健康であるための生活環境の整備 (水、栄養、休息など)</p> <p>第6回:発展の途上にある国の健康の問題を考える 2) 疾患等 (3大感染症、母子保健、小児保健) の理解と看護</p> <p>第7回:途上国の災害時と健康の展開について考える (健康を危機的な状態になる自然災害、紛争など)</p> <p>第8回:演習 「興味のある国の健康問題を考える。(グループ演習の予定)</p>	